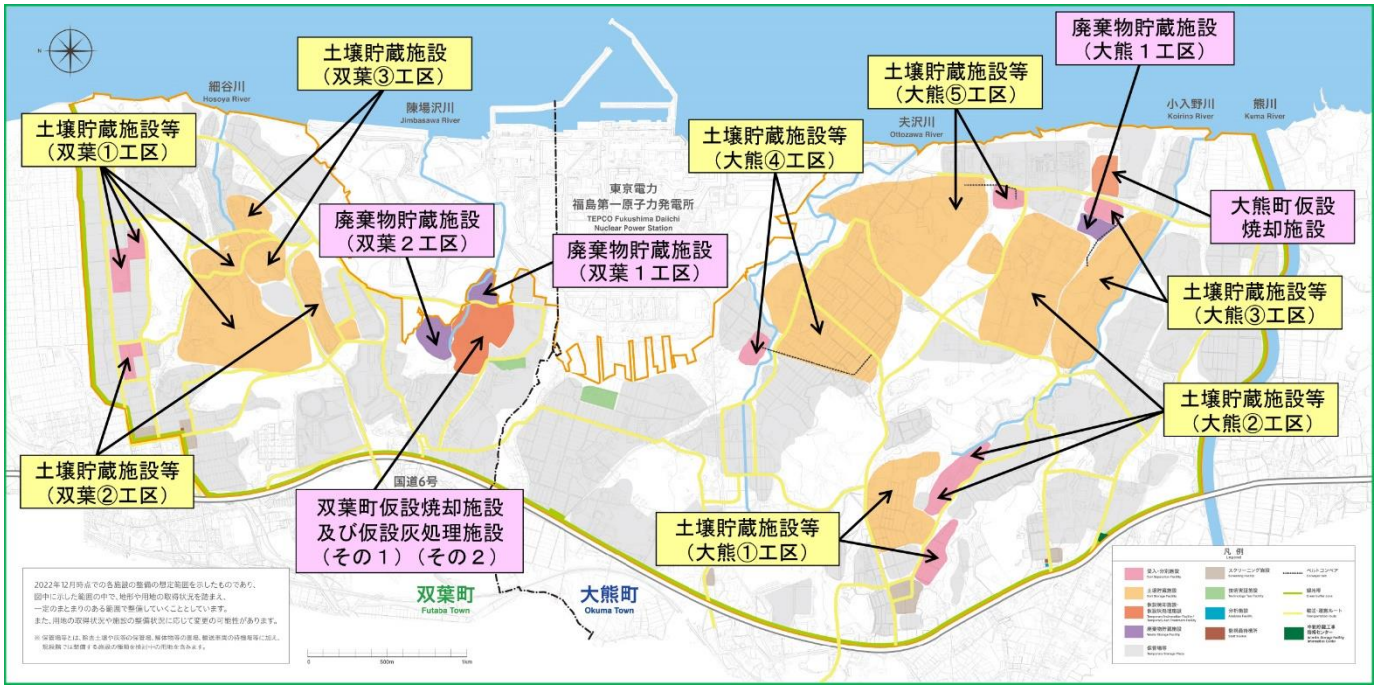
2025年11月10日

中間貯蔵施設の整備の現状

概要

- 放射性物質汚染対処特措法等に基づき、福島県内の除染に伴い発生した放射性物質を含む土壌・廃棄物及び福島県内に保管されている10万ベクレル/kgを超える焼却灰等を最終処分するまでの間、安全に集中的に管理・保管する施設として中間貯蔵施設を整備しています。
- 2016年11月に、大熊町・双葉町において、受入・分別施設、土壌貯蔵施設の整備に着手しました。
- 2017年６月に除去土壌等の分別処理を開始し、分別した土壌について、大熊町では2017年10月、双葉町では2017年12月から土壌貯蔵施設への貯蔵を開始しました。
- 2020年3月に、中間貯蔵施設における除去土壌と廃棄物の処理・貯蔵の全工程で運転を開始しました。



受入・分別施設及び土壌貯蔵施設の整備状況

2025年10月31日時点

- 除去土壌の分別処理を行い、10月末時点で、約1,201万㎥（輸送量ベース）の土壌を土壌貯蔵施設に貯蔵しました。

工区	大熊①工区	大熊②工区	大熊③工区	大熊④工区	大熊⑤工区	双葉①工区	双葉②工区	双葉③工区
貯蔵容量※1	約103万㎥	約297万㎥※2	約167万㎥※2	約180万㎥	約269万㎥※2	約105万㎥※2	約85万㎥	約77万㎥※2
貯蔵量※1	約103万㎥	約289万㎥	約167万㎥	約171万㎥	約221万㎥	約102万㎥	約85万㎥	約63万㎥
土壌貯蔵施設スケジュール	2018年7月貯蔵開始 2023年1月貯蔵完了	2017年10月貯蔵開始	2018年10月貯蔵開始	2020年3月貯蔵開始	2019年4月貯蔵開始	2017年12月貯蔵開始	2019年5月貯蔵開始 2022年9月貯蔵完了	2019年12月貯蔵開始

※1　貯蔵容量及び貯蔵量は、仮置場等からの輸送量ベース（１袋＝１㎥で換算）であり締め固め前。
※2　必要に応じ堰堤を造成し、容量を増やす予定。

大熊①工区

大熊②工区

大熊③工区

大熊④工区

大熊⑤工区

双葉①工区

双葉②工区

双葉③工区

（受入・分別施設は整備していない）

左の写真が受入・分別施設、右の写真が土壌貯蔵施設

仮設焼却施設及び仮設灰処理施設の整備状況

2025年10月31日時点

- 仮設焼却施設及び仮設灰処理施設で処理を行っています。

施設	大熊町	双葉町（その１）	双葉町（その2）
規模	・仮設焼却施設： 200ｔ／日 × １炉 （ストーカ炉）	・仮設焼却施設： 150ｔ／日 × １炉 （シャフト炉） ・仮設灰処理施設： 75ｔ／日 × ２炉 （表面溶融炉）	・仮設焼却施設： 200ｔ／日 × １炉 （ストーカ炉） ・仮設灰処理施設： 75ｔ／日 × ２炉 （コークスベッド式灰溶融炉）
業務用地面積	約5.0ha	約5.7ha	約6.8ha
処理開始	2018年２月	2020年３月	2020年３月
受注者	三菱・鹿島JV	新日鉄・クボタ・大林・TPT ＪＶ	ＪＦＥ・前田ＪＶ
外観			

廃棄物貯蔵施設の整備状況

2025年10月31日時点

- 10月末時点で、灰処理ばいじんを封入した鋼製角形容器33,201個を廃棄物貯蔵施設に貯蔵しました。

工区	大熊１工区	双葉１工区	双葉２工区
主な建築構造	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（２棟）	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（１棟）	鉄骨鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造（１棟）
貯蔵容量※	29,280個	14,678個	30,028個
貯蔵量※	14,802個	14,678個	3,721個
敷地面積	約2.4ha	約2.2ha	約3.7ha
着工	2018年7月 造成開始 2018年12月 建築開始	2018年6月 造成開始 2018年11月 建築開始	2019年12月 造成開始 2019年12月 建築開始
貯蔵ｽｹｼﾞｭｰﾙ	2020年4月 貯蔵開始	2020年 3月 貯蔵開始 2024年12月 貯蔵完了	2023年12月 貯蔵開始
施設整備受注者	鹿島建設	大林組	鹿島建設
定置・維持管理受注者	安藤ハザマ・不動テトラ・淺沼ＪＶ		
外観			

※　貯蔵容量及び貯蔵量は、鋼製角形容器（内寸 約1.3m(幅)×約1.3m(奥行)×約1.1m(高さ)）の個数。